

JALが取り組む
新しい空への挑戦を
皆さまにお伝えします

伊勢市、三重県と共に 新たな旅のカタチ 『常若婚』を発表

JALは2015年12月、地元の皆さまと共に進める地域活性化の取り組み『JAL 新・JAPAN PROJECT』の一環として、三重県と「食」と「観光」に関する協定を結びました。そしてこの度、新たな観光プログラムを企画。その内容と発表に至るまでのエピソードをご紹介します。



01.02 「常若」の精神が伝わる伊勢神宮。03 「常若婚」発表会には（左から2番目より順に）伊勢市の鈴木健一市長、JAL 会長の大西、三重県の鈴木知事が出席。二見興玉神社の夫婦岩前で記念撮影。04. 伊勢神宮参拝前に訪れるとよいとされる二見興玉神社。05. 毎月1日、11日、21日の朝には、「神馬牽参（しんめけんざん）」を見学可能。06. ツアーでは、式年遷宮の歴史を学べる「せんぐう館」も訪れる。07. 常若婚を担当した（左から）三重県の瀧口さん、JAL の阿部、伊勢市の須崎さん。



新しい旅のカタチになると考えました」とJAL 会長の大西賢。さらに「飛行機でお客様さまや物をお運びするだけではなく、その土地の魅力や磨くこともJALの使命だと考えています」と続けます。

**地元の方々と共に
地域を盛り上げていく**

伊勢市、三重県と連携し当企画を担当したJAL名古屋地区販売部の阿部達也は「常若の精神をどうお客様さまにお伝えするか、試行錯誤しました。そんなとき、ありがとうございます」という言葉がポイントになりました」と語ります。そして、人生の節目に日頃一緒にいるご夫婦やパートナーへ、いつもありがとうございます。これからもよいしく、という感謝と未来への思いを伝え、気持ちを新たに今後の人生を共にスタートする、「常若婚」が誕生。三重県雇用経済部観光局観光誘客課の瀧口嘉之さんは「常若の精神が伝わる三重県ならではの取り組み。お越しいただくお客様さまに伝わりやすいキーワードだと思いましたが、人生の節目に、何回でも体験できるのが常若婚のいいところ。まずは、より多くの方に三重県に足を運んでいただきたいです」。



三重県ならではの旅の要素 「常若」の精神

JALは、三重県と協定を結んで以来、三重県を盛り上げ、活性化を図るために地元の食材を使った機内食をご提供^{*1}したり、機内で三重県に関する映像を放映するなど、三重県ならではの食と観光の魅力を国内外に発信してきました。また、「JAL伊勢志摩パールライン」^{*2}によるアクセス改善も展開。さらに、伊勢市と三重県、JALの三者が連携して、三重県ならではの新たな旅のカタチを模索し続け、1月9日に「常若婚」を発表しました。

常若婚とは、「いつまでも若く瑞々しいままに永遠を目指す」という「常若」の精神が息づく伊勢へ、パートナーと共に訪れ、お互いへの思いと絆がいつまでも変わらぬ永遠であるよう、新たに誓い合うもの。実際、伊勢神宮では、神職たちが昔から変わらないお祭りを続けながら、20年に一度新しいお宮を建て、神様にお遷りいただき、常に瑞々しい場面にいたいただくよう式年遷宮を行っています。「昨年、鈴木英敬三重県知事との対談で、『常若』の精神を知りました。これこそが伊勢市、三重県ならではの価値ある旅の要素であり、

さらに「まずは伊勢市民、三重県民に常若婚を知ってもらい、PRしたいです。いずれは海外の方にも常若婚ツアーに参加してほしいですね」と先を見据えるのは、伊勢市産業観光部観光担当の須崎充博さん。JALの阿部も「JALがすべきことは、お客様さまが三重県を旅するきっかけづくりをし、地元の方と共に盛り上げることに。そのために常若婚の認知度を高め、伊勢市、三重県のブランドとして常若婚が確立するまで、連携しつつ支援していきます」とこれらの展開を語ります。

JALは今後も「JAL 新・JAPAN PROJECT」を進め、日本各地域の方々と地元の魅力を再認識するきっかけづくり「観光促進」と「農水産物の6次産業化」^{*3}を柱に地域活性化に貢献してまいります。

■「常若婚」のダイナミックパッケージを販売中です。常若婚の詳細やツアー内容は下記をご覧ください。
japan.jal.co.jp/tokowakakon/

*1 名古屋（中部）発バンコク行きビジネスクラスにて「鳥羽国際ホテル」山崎総料理長監修洋食メニューをご提供中。
*2 中部国際空港セントレアと津なぎさまちを高速船で、伊勢市駅・伊勢神宮外宮・内宮をバスで繋ぐ、空・海・陸を結ぶ観光ルート。
*3 1次産業としての農水産業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業などの総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出すこと。